HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第12巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1961-09-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77619
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I015_0112.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

12

久美堂特製
¥20

MA
20

NOTE BOOK

Made of paper

Specially prepared in Japan

國民社會の研究
第十二巻

昭和三十六年十二月十四日

A—NO.3 MUSASHI

12

国民文化の斉一化は何の為に存するのか。
社会的交流があるから存するとして
それ社会的交流は何の為に存するか
その答は精神的価値になるのか
問題と同じであるか。それは之等は
物の為に発展するかとの問いと同じである。
そんな問いは精神 [illegible] 醒は
生まれるはないの。互いにかかわり合う
と同じと見得る。
国民文化の斉一化は国民経済の技
術上の便宜の為にも必要なことである
すなわち文化はあるいうる経済は国民生

社会的交流は何の為にあるか
国家経済の為に国民文化の斉一化は
必要か。
物の交流については水の様に考えら
れる。水が高きより低きにつくるに
よって同じ水位に達して平静を
なり安定すると同様に、余剰の物
資が不足のところに達するのは不
足の側の欲望でもあり余剰にある
側の欲望とする。それは交流す
ることによって欲望が充足され平静
を得る。所謂経済体系における価
値体系の整序 行為基準の

1

物として取扱ひ教として居るなする
事あるが尤一番便宜である。
個人格を有つかなかったり個性をなかったり
社會福祉を考へたりするるは燈籠下信ずかたた。同一の
命令下諸物の様に信ずるか尊しい。
国民の任務を機械の様に動かすのに
は出来ず又個々の意志を尊んで
生活の地方差をなくするるか必要
である。然し生活の地方差はなくして
も階級差は嚴として存在れは
ならぬ。統治者が自分達の地位を高
くするかには階級差は嚴格に定めて
おかれなければならぬ。地方差はなくせんとし階級
差は最早まる方針の中に當然たの如く都市向

統一とするよ務めても具体的には物資
の統制平等とするよ様努められ国連
しては法令が出されてあろう。實施に
は安定平靜して均衡のとれた
状態が目標とされている。
直接には不足又は欠乏は甚だしくあ
る。塩のない山村では塩を切望
する。海岸では有り余って困った
ところでは塩は邪魔である。どっち
からか手を出せば活はすぐ通じるので
ある。中に立つ商人はどっちの側にも
神様である。すべて商業活動は
の村村の上下流都鄙是はれる。

*立憲保保が甲地として他が田畑であるから
交易の必要が生じる。相互補助
化の必要。自ら結果する。文化の発展

かくのごとき人の。相手の強しかよりものを造る
次に経済活動においては、収穫と
消費は必要の
経済が自己中心を守るあいだ収
穫が必要である。自己と国民を守る
ためには多くの大きな収穫を必要とする。
収穫の金銭を得るあいだ防衛
の金銭をはらわない。国民負担は等
しいとする。

*自己が他の国に征服される他の国民の統治の下に
また置かれぬ様に自国の国力の増
大を常に希望している。自国のは

人口の量や口土の広さも問題であるが、
もっと多く国民の知力の発達も問
題である。これらは教育を高めな
ければならぬ。これらのよい民度を
高めなければならぬ。私は産業の
発展を指導・援助し協力して為
すべきである。さんぎょう活動が国民の
文化の新時代に向かう当然である。
地球上に国家がある限り、それは
対立し接触し競争し闘争をつづけ
ている。為政者は油断もすきもなく
常に国力の充実に心を用いなければ

国力のために

はなくなる。国内の産業の繁盛を
はかり、国民福祉を高めて行かなけ
ればならぬ。絶えざるその活動は
国民文化の新一化を結果している。
これには強しい社会的変革を
必要とする。

国土の分散配置とその生活の本拠をもつ
る全国民をもれなく統治するには
首都を中心とする分散に統治活
動の根拠を絶対的に排撃する
必要がある。かく
のごとき根拠となっているのが大中小の

地方都市である。
保健や医療や協力を消防機関より受けるのの多い我が日本は機関
は好んで経済機関の四
い集っている。日本の官僚はどれかお
好きでしょう。

十二月二十九日

江島のヨットハーバー建設

この大戦の時に大財閥、名門（高勝）学がくの子弟の戦死者と一般国民の各家庭における戦死者との数量の比べ何

一般家庭一戸当り何人

大財閥家庭一戸当り何人

特権家族一戸当何人

政治の未熟の例

江の島に今オリンピックの為のヨットハーバー築造の工事が進んでいる。突堤と埋立地一万坪ばかりが造られている。今では戦前の事大金作（多額賠償）と政府が進めているが、地元の者は大反対している。

一万坪の埋立地には大金業作が造船基地ホテル遊園地、商店街が大規模に作られようとしている。

今では工場の廃水や汚物を地元の人達に用水（飲料水）として使わせる様な事は全くなく対岸の茅ヶ崎（ちがさき）に送っている。せめて知らせくれと地元で騒いで最初大金業作で江の島に大投資する。

この事業計画に対する同様建設工事を調査の事

政治の未熟の例

強いかおこった時、島の人達は核未来
者を撤廃するしのと反対し形かつの藤
沢市議会に陳へた。その時は今の対
で有ていた名瀬地指定されている
に、指定地をさがけ出れがあるとし
て反対した。然し最近になって指定地の
わくからはつさみてしまった。地元民の
意思の如何にかかわらず、指定要望書
で出て決議すれば合法的にいつでも解
除される。指定されている。最初の頃は
藤沢市議会に島民の希望に同調
的であったが、知事からの圧力で

どうしようもなくなっている。
国家、政党、市場を通じて一本になっている。上下に貫いている政党の中心の方向が生れを決定している。政党の中心は大企業と結びつき、恐らく大企業の大きな配分の為に大企業の奉仕通りに動くのである。

大企業が有利な投資の場を見つけたら、東南アジアよりも大政党も動かしその方向に向わしめるのは容易である。地元の人達の反対があるの

＊政治家が欲するものは選挙の
ための金と票だけは選挙の時の
禁である。
その票の利用はよっぽど今の政治家は
私が出るのであるから結局その票は
強制することは一つの敵対者であろう。
昨年こそ藤沢市長キイン選挙に結果し
少くとも藤沢市長は野党
を投票することによって藤沢市政は野党
しかしわれわれの島の民は同盟して
選挙のそのような心理であるから
が起れた。ぬれのである。

は当然に心得ていても構わないよっぽど
如何に金は使っても使えないのであろう。
江の島の島民こそ今に喰いあげにならない
なければ幸である。心配にならない反対
しっぱなしにしなければならないのであろう。これが
政治家としての責任であろう。＊
今日本の各地にこれと同じ形なる
が一番におこっている所に思はれる。
どこでも地元の人達の反対をおし
て大政党と大財閥が陽年
に様々の大改革大建設を行って
いる。

10

十二月三十日

三権の首脳

日本三権の首脳は（統治機構）

司法、横田最高裁所長、立法、衆議院議長、以下各相談役三十人

が官中枢に招かれて懇談された。

が三回目の米国訪問の年

表敬訪問が、政府成立の為

は知れた。日本の最高の三権は

はこれ等の三権力を支配する

丈で国民元帥全部を支配

する元綱を支配しなければ

法令は元綱が三つの本元綱

に収められている。

11

にしている。この三つの元綱が合って幾つかの大綱に分れ、それから中綱に分れ、中綱から小綱に分れている。小綱の先に集まっている多数の細紐に先ん世帯をかむびつけられている。

三十は

中河都市演説の要旨

中河都市は結市の機関の集合によつて出来ている。上級都市よりの命令人や心を指揮するとこれを当の同が同じ下級都市に配分するかその機能である。又下級都市より集まつたものを上級都市に送りまとめて中央政府といい。

然し当れは第四都市の性格の都市であつて工業都市の性格の都市は之れとやし異つている工業都市の性格の中河都市は下級要塞等より受けて村郷に加工

13

して工業製品を作り、その製品を
又下級農業諸国に送り出すのである。
その場合は中間都市であるが、
首都におけるが如く加工的操作
を行っている。
現実に見る中間都市は大抵新興
商業都市的性格をもち一部に
工場都市の性格を併用している。
最近における交通通信文化の急激な
発達に伴い中間都市の
商業都市的な活動は
其機能を上級都市と下級都市
に奪はれ、中間都市は過渡の

運命をもっている。

又中国都市化工場都市化は

は材料を供給国も製造販売国も

共に拡大し材料を求める範囲も世

界的となり製品を販売する国

も世界的ならんとする傾向を

示している。これと共に工業都市の

大工場の下請工場化の傾向が見

られる。

かくて中国都市は最近にかなりは

より多く工場都市化すると共に

より多く下請工場都市化の傾

＊かくの如き輸送をもたらくるものは集中消費か最も効果的に国民経済力を利用するものなるし、又国家が金円余すところなく生産をなすべき為にも優秀である。

向を示している。

金円の大小の各都市は首都における大工場の下請工場又はその下請工場は更にその下請工場になる傾向に近ずいたと思はれる。中間都市は中間高地の都市から中間下請工場都市に近ずいたと思はれる。＊

首都は金円の各種の工場の現工場の集まっているところとなるであろう。

商業都市的性格は漸次下級田舎町にうつり、商業都市はあげて高度消費性をもつ都市居住者に対するもの

16

※それとも各種サービス業は益々隆盛する地のと思はれるが交通の便がよかつた中央都市の傍へは二階建が一階建になるとかなり減じては行くが界隈地帯はたしなるであらう。

となつて行く低内に過ぎないであらう。※

口民は皆都会らしい口民服を身につけて来るであらう。この口民服は我々の口民服ではなく、生活と共ものの口民服である。

末端行政の例

全日本社会福祉協議会。この下に府縣の協議会があり、その下に市町村の協議会がある。更にこれに民生委員の組織がある。東京ならば区が末端機関であろう。

この種の団体の名は雑年鑑の附録以下様々のものがあげられる。

中心に政治の力が直結していない団体は労働団体、同業団体、学術団体、社交娯楽その数で他の大部分の団体には政治の力がひそんでいる。

保安調査庁の末端活動の大学内の例。

行政は上から与えられ
自然は下から造られる。
けれども自然と云へば何
時とても立ち現れたものの上に成り
立つ物質的なものである。

20

国民生活における主要問題

二、国民生活構造

生業と生活の組織

国民生活構造（附 貧困の意識）

国民生活構造

一、共同体と国民生活単位

一、第一生活地盤、　二、第二生活地盤

一、第三生活地盤

都市と農村

社会構造における都市と農村

交通路線、交易、流通、通信

三、一、国民社会

一、各地の協力と伝統的組織

一、日本文化における流通圏（その構造）（その類型別）

国民伝統的構造（アンソロポロジー一般について観論を展開）

イ、伝統的様式に基づく慣習

＊原始社会においては皆それぞれの政治的組織を持っている。それはそこで自然発生した組織であり、外部からの指令によって造られたものである。つくられた当時は不自然であるが、歳月とともに慣習つまり自然発生的なものの性格をもってくる。

口の中央の政治中枢が全国的に活動するのはそれらの原始的政治作をとうしてである。それが口の行政組織である。この行政組織の下部に政治活動の系統は組みたてられている。

21

一、末端における統治の組織と活動

一、最上部は政治的に行政機関。

政治は上部のもとの目的に奉仕する。

政治と末端

最上部の組織と活動

口家と原始共産的防衛と

生活協力の機能をもって、

原始的な職分体としての

口民的なーまれは下から上への

組織であるーつ家は上から

下への組織で、上部の活動は

ちょうどその下級原始社会

（一月廿十一日）

日本人の特性

1. 神に対する考え方及び制度
神仏その他にこだわらない

2. 祖先に対する考え方 と制度
朝鮮中国と異なる

3. 現世に対する考え方 今と

4. 死人に対する考え方 慣習

5. 親族に対する考え方 制度

6. 家族に対する考え方 制度

7. 村人及び他人に対する考え方 制度

8. 統治者に対する考え方 制度

9. 学校教育人に対する考え方

10. 宗教に対する考え方 と制度

22 日本人の社会性

23

日本人の知能テスト平均

日本人の体力

日本人の学力成績

新聞雑誌、芸術、発見、

冒険

日本人の統治組織

分量、味、性能、価格、保存、美観

優秀、衛生、美観、家柄、習慣

暴力、信用、成績、教育、親兄弟、先生

美観、健康、知能、家族、身分、金富

99

日医答申における価値体系

日医が現に行っている価値観の

体系のなかの不一致

一、八百屋の店頭で主婦の買事

買物かごに入れの場合の判断

一、主人が家同時出の場合の判断

一、少年が仲間と遊ぶする場合の判断

一、少女が少年を思慕する場合の判断

それぞれにおける価値の評価の準拠差異

9-5

○日本文化におけるシンクレチスム性
神佛の結合を基礎として居る
是れは甚しくシンクレチスム的性格
が認められるのではないか。
それ等のシンクレチスムに[illegible]を
分けるのは[illegible]
整序せられるものには合[illegible]
では出来ず、[illegible]
[illegible]成[illegible]と[illegible]
[illegible]の[illegible]と[illegible]
る[illegible]が[illegible]
。それ故でも及ばぬ時には大
雑が出る。

日民元会の非合理性

ポツダム宣言は自然科学の世界における法則の人間元会では67又は67であるが常である。

日本人は時間学を会った人である。

法律は神が作ったものではなく人が作ったものであるから完全に合理的であるとは限らない。非合法も駄目ですきすてはない。駄目ですきすもある。

神が作った法律に反する時の方駄目ですきであるが、神が作った法律は明白でない。

二 第二項は、日本国の交戦権を認めない。

モンテスキューの法の精神の第一章

（第九条第一項の第一章）

第九条第一項は、

一 防衛力との関係において攻撃力をもつことは、

二 つまり、

X 政治組織（基本法）との関係において政治的自由を形成する法について

三 の意味

XI 市民との関係において政治的自由を形成する法について

三 の意味

XII 刑罰および捜査の大きさが自由に関して法の関係について

三 の意味

XIII 二 第二項は、日本国憲法の基本構造を自由

の現象と結びついて深まってゆくものであるが、その要約した機能は

防衛力（対内対外）

（もたせる。）

統治体制（民主政治）

市民の生命財産の安全

国民の自由の発展のための統治（憲法）

以上

右の第九条は防衛力の法的根拠であって

これは他国民を口説（第一九項）

「国家ないし民族の生命の力は自

衛の能力であるという」（松本）

憲法の精神である。この根本を忘れてはならぬ

のである。

※この君主制は君主と貴族よりなるものである。

※この共和制は貴族と平民よりなる。

モンテスキューは世俗的法的な家の伝記の上に論ずる。

君主政体のみが本性上自由な政体であると錯覚している。構造上自由な政体であるとの意である。

政治的自由とは「人が欲する者のことを行なうことが出来、人が欲する者のないことをも行なうべく強制されないこと」である。（『法の精神』第十一篇三章）（『ファウスト』P.88）

モンテスキューでは政体が三つあってそれぞれの作用原理がある。

君主政体 ― 名誉

共和政体 ― 美德

モンテスキューの政体論では平民は考えられず、それは考慮に入れない者として決定され、治める側からの政治構造としての政体が考えられている。未熟

とか神統治との偶像とか願から問題でなかった。治める者の技術とか問題であった。平民は水で水の中に

泳ぐ技術が問われて、水との接触をなくと言って問題にされなかった。逆にいくつかのスポーツ、例えば平泳ぎの存在の意味を全面的に問うたのではないだろうか。今でこそ未練の統治とか統治技術を人と人との間の現象と考えるが、十八世紀的では平民は水か土か他の存在に比べられ統治する人間が人として考えられその技術の一つとして統治する技術が考えられていたのであり、決してそうではなかったのか。

アメリカの都市とは日本の都市
アメリカの都市はアメリカの都市である
学生がかなり移に異質の人口を集中し
皆研究の主流すると人口の集まりが
のから、又主に整理の仕方かなり為
は一人一党とその他に対応して
いる事が見られる。それに
対しては日本の都市は整理の仕方
が様に有し、人口集中しその仕
にそって集められて、多い人は皆
それぞれの枠の内から住宅に移
って住すれば混乱する
は分る。ここでは一人一党ではない。

や信仰

古くから、お花や書道や茶道
や生花などの枠があり人は皆
それぞれ枠の内に活動して来た。
その枠が根をそぎにくくなってきたとと
もあるが、少しづつ時勢に適応しな
がら変遷している。
昔はそれが全国的に整然としたピ
下の系統の内にあさめられていた。
西の地方の電鉄と京都の"祇園"
を伝へとして地方的合流の分化段階を
もち新しの組織も出た。その金口的
な新乳団体の組織よりはなれて

のが一がく水盤頭である。そんな大数の度別的存在はどこにもなかったあるが、大部は金口的に整備されたお茶でもお花でも武芸でも又修練を要する生業でも時者者した枠をもっていた。日本の都市にはそんな枠が無尽蔵に有っていた。それが明治以前漸次弱体化はしたが一時は急変するほどだった。おれは二の戦争の時である。お花と画も踊も学と変ったものが出たがそれも一つの枠を造ってその内成

しかし、ここでは一人一人の
対応はない。
アメリカの[illegible]の人民
集まり、その意思を許され
ている混乱とは異っているのだ。
ら、私は都市社会学的
の最初の結びに都市は思ったより
相対的に動いていると思った
のである。私は本部事の
起源である。

日本国民政府の構造図式

日本国民政府の国家統治の主要部は東京にある。金国の道府県に統治支部がある。現在の道府県支部統治しているところである。道府県内の市町村に支部の支部がある。更に市町村の支部の活動の要所となるところもあるが活潑でないところもある。国の統治本部より指導機関まで同一の統治活動が同時に行はれる。その為に中心より指導までの交流は精微強力を極めていなければならぬ。知し中心より第一次の支部まで

の交流路線は最上級の設備であるが
第二次第三次の統治機関は第一
流路線は二級流三流のものとなっている。
交通通信化の機関の配置は
大体この統治の路線に沿ってその
規模の大小を現はしている。（マスコミの発達も大体そうである。）
人口民族の構造関係の第一は地
図の上に示されなければこの統治機関の
大小の比の配置とその間の交流
路線によって示されなければならない。
人口民族の保安機関の配置と

この図上の交通路線若の図は第二の
D民元不構造図をなすものであ
るが、これは統治構造図式と大
体に於ては一致しているものと考えられる。
教育、信仰、娯楽の機関も大体は
統治の機関の大小の配列に準じて
位置していると云える。
殊さに第二の機関高等工業
都市を構成する
の機関も第同様に統治機関の
大小の配列に平行して存すると云
へなければならぬが、特に工業は特
有の立地條件に支配されるものへ

的、経済の路線と全く異った場合の配置をとることがあります。時代の交流路線の分岐点に生じた国業機関が、そのまゝに存続している場合があります。

然し日本国民経済における経済機関の大小の配置は大体に統治機関の分地域的配置にそっていると云ふことが出来ます。大小の

国民の経済活動は主として前に述べた諸機関に現はれているのであるから、当配置は

その為には国民生活増進風式と考えるべきかと考う。

（二月十四日夜）